

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	地域生活支援センターかのん			
○保護者評価実施期間	2025年 6月 21日 ～ 2025年 6月 30日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 6月 21日 ～ 2025年 6月 30日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 8月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・併設の保育園とのインクルーシブ保育を行っているので、保育士と療育スタッフが協力して支援を行うことが出来る。	・保育園の担任と児発職員で定期的に会議を行い、支援について検討、共有を行っている。	・保護者の思いをこまめに聞き取り、支援方法を一緒に考える。 ・専門機関や地域資源と繋ぐ。
2	・午前中は集団保育、午後は療育活動など保育と療育の時間割を調整することができる。	・個別活動の際に良好だった内容を集団の際にも応用し、クラスの中で落ち着いて過ごすことが出来るようになった。 ・活動の見通しを持てるように、スケジュールを事前に提示するなどの工夫をしている。	・集団活動に関われる役割や、活動内容を考える。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・インクルーシブ保育について発信が不十分なため、日々の活動が「遊び」や「保育」として見えてしまい、支援の根拠が保護者に伝わっていない。	・保護者に対して、活動内容の共有や支援の根拠についての説明が不足している。	・保育園との差別化を明確にする。（保育園は集団での育ちの場、児発は個別性に基づく専門的支援。） ・専門性を言葉にして伝える。 ・専門性の見える化シートを作成する。
2	・職員の専門性や知識が不足している部分がある。	・保育園と療育の違いをどう調整するかのノウハウの蓄積が不十分。 ・インクルーシブ実践の経験が少なく、支援の工夫が限られている。	・定期的な外部研修や内部勉強会を取り入れる。 ・外部機関との連携を強化する。
3	・事故対応、災害対応等の緊急時対応マニュアルは整っておりホームページに掲載されているが、保護者の方への伝わり方が不十分な部分がある。	・お一人お一人に向けて説明をしていないため、周知が不十分だった。	・ホームページや保護者会等で全体にお知らせをするとともに、個別面談の際にもしっかりと説明をしていく。